

実施報告書

1. 確認事項等

施設番号					
施設名	敬愛高倉保育園				
施設所在地	八王子市高倉町46-1				
法人名	社会福祉法人 敬愛学園				
活動期間	令和	6	年	6	月 から 令和 7 年 3 月
活動内容の公表	✓	保育活動をドキュメンテーションで作成し園内に掲示			
	公表したホームページ等のURL		なし		

2. 活動報告（注1）

番号	1
テーマ	光
実施回数・期間 （注2）	合計5回（内訳：12月1回、1月1回、2月1回、3月2回）/ 令和6年12月から令和7年3月まで
対象クラス・ 対象人数	0歳児クラス
	1歳児クラス
	2歳児クラス
	3歳児クラス
	4歳児クラス
	5歳児クラス
	人
	人
	人
	人
	人
	21人
活動内容 （注3）	水の入ったペットボトルや透過性のあるブロックに光を当てて影の変化を試したり、色の移り変わりの変化について探究した。
活動における チェックリスト	✓ グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促した。 ※乳幼児同士の関わりを促すためにどのような工夫をしたか 一度に全員ではなく、少人数のグループで行い、少しずつ人数を増やした。人数を少なくすることで集中して遊び込める環境を整えた。
	✓ 活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録した。 ※記録をどのように行ったか 活動の様子をスマホを用いて写真にて記録した。
	✓ 乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行った。 ※主体的な活動のためにどのような工夫をしたか お子さまたちが自由に玩具・保育用品を使用したり、素材を選んだりしながら自分の興味に基づいて自由に活動できる環境を整えた。保育者主導にならないように見守ることを心掛けた。
	✓ 記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返った。 ※振り返りの実施方法 休息の時間に担任間で話し合い、他にどんな素材を用意するか話し合った。その際に、遊び方、お子さまの気付きを共有した。
	✓ 幼稚園等の各施設の教諭同士や保護者等に、探究活動の内容を共有した。 ※教諭や保護者等への共有方法 電話や研修で同席した際に法人内でテーブルの活用方法を話し合った。保護者へはドキュメンテーションを用いて保護者へ伝えた。
	✓ 次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考えた。 ※継続的な実施のための工夫 初めは、グループごとに活動していたが、保育室に持っていくことでいつでも興味を持ったタイミングで遊べるように環境を整えた。

（注1）活動報告は、複数の活動内容を実施した場合は、活動ごとに記入してください。

（注2）「実施回数・期間」欄には、今年度に継続的（月を単位とする複数月）に実施した取組の実施状況を記入してください。なお、原則、単発で実施した取組については対象になりません。

（注3）「活動内容」欄には、どのような取組を行ったのかがわかるよう記入してください。また、活動報告書等、取組を行ったことがわかる書類の写しを提出してください。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	
施設名	敬愛高倉保育園
施設所在地	八王子市高倉町46-1
法人名	社会福祉法人 敬愛学園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

光テーブルを使用した光あそび

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
法人内で運動、造形、食育、自然事象など様々な保育を探究するチームがある。ダンボールハウスを使った光遊びや懐中電灯を用いた光遊びなど日常的に行っている。その中で、光テーブルを購入した為テーマに設定した。

2. 活動スケジュール

合計5回（内訳：12月1回、1月1回、2月1回、3月2回）/
令和6年12月から令和7年3月まで

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
・透過性のあるブロック
・マグネットブロック
・レゴブロック
・水の入ったペットボトル

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

水の入ったペットボトルや透過性のあるブロックに光を当てて影の変化を試したり、色の移り変わりの変化について探究した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

「黄色と緑を重ねると青になる。」

「ピンクと赤でむらさきになるね！」

色の変化に気付いたお子さまの発言から、自分が好きな色を作り出そうとする姿が見られた。また、廊下に設置した時と保育室に設置した時とで部屋の明るさが変わることによって光の強弱に気付く姿も見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・初めはグループごとと少人数で行い、扱い慣れてきたタイミングで保育室に導入した。グループのメンバーによって遊び方が変化すること、気づきにも違いがでることが面白かった。保育士主導にならないように素材を用意し見守ることでお子さまの自由な発想から遊びが広がっていくことを再認識した。今回用意した素材が透過性の高い物を中心に準備したが、保育雑誌に砂や葉っぱなど自然物を準備している保育施設もあったので、次回以降の活動に活かしていきたい。